

本間 洋子 著

中世後期の香文化

香道の黎明

2014年2月刊行予定

▶ A5判・448頁／定価 8,610円 (税5%込)

ISBN978-4-7842-1733-5

本書では、香を^{こう}たき鑑賞する催しである香会と香木・薫物の贈答を香文化として捉え、香道の発生期の一次史料を基に、「香道の祖」とされる三條西実隆や「香道志野流の祖」志野宗信と香との関係の再検討、「香会」の具体的内容についての考察、天皇への香木献上や天皇からの薫物・匂い袋の下賜を数量的かつ具体的に考察する三視点から、中世後期の香文化を解明する。香道について初めての実証的な歴史的研究。

予定内容目次

第一章 「香道の祖」三條西実隆についての再検討

- 一 禁中の香会
- 二 実隆邸の香会と宗祇
- 三 香木・薫物の贈答
- 四 三條宗家の薫物調合

第二章 「香道志野流の祖」志野宗信についての再検討

- 一 土倉「志野」
- 二 酒屋「志野」——戦国期『押小路家文書』から
- 三 伝書・記録の中の「志野」
- 『名香合』『室町殿行幸御節記』『山上宗二記』

第三章 応仁の乱後の禁中香会

- 一 後土御門天皇期 ——『お湯殿の上の日記』にみられる香会記事
- 二 後奈良天皇期
- 三 正親町天皇期
- 四 後陽成天皇期
- 五 後水尾天皇期

第四章 禁中香会にみられる組香の形態

- 一 十炷香の方法 ——有試十炷香と無試十炷香
- 二 系図香の方法

第五章 源氏香の誕生

- 一 「源氏香」の名称の登場 ——近衛政家の日記
- 二 「香図」に「源氏」の名を付ける ——近衛尚通と細川高国
- 三 近衛尚通が名付けた「香図」銘の可能性

第六章 天皇に対する香木の献上 ——『お湯殿の上の日記』から

- 一 後土御門天皇期
- 二 後奈良天皇期
- 三 正親町天皇期
- 四 後陽成天皇期
- 五 霊元天皇期

第七章 蘭奢待の献上と下賜

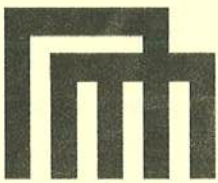
- 一 蘭奢待献上 ——『実隆公記』から
- 二 蘭奢待下賜 ——『お湯殿の上の日記』『後奈良天皇宸記』から
- 三 蘭奢待贈答・献上・下賜 ——『言継卿記』『言経卿記』から

第八章 天皇からの薫物・匂い袋下賜 ——『お湯殿の上の日記』から

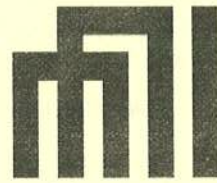
- 一 後土御門天皇期
- 二 後奈良天皇期
- 三 正親町天皇期
- 四 後陽成天皇期
- 五 後水尾天皇期
- 六 霊元天皇期 霊元天皇期

第九章 中世後期の香道具・灰

- 一 一 聞香炉
- 二 灰・炭団
- 三 火道具・銀葉



源氏香之図 (胡蝶)



源氏香之図 (初音)

ほんま・ようこ…群馬県生。武蔵大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得退学、博士 (人文学)。臭気判定士。現在、武蔵大学総合研究所研究員

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	中世後期の香文化		本体8,200円(税別)	ISBN978-4-7842-1733-5
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒		書店番線印		
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料400円を現品と引き替えにお支払い)				

天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史

三島暁子著

南北朝・室町時代を通じて天皇・将軍が学び権威のシンボルとなった「笙」。本書では、天皇家・将軍家の笙の御師範として重要な役割を果たした地下楽人豊原氏の南北朝期から約150年にわたる活動に着目し、公・武・楽家という3者の関わりをなかから、権威に密接にかかわった音の文化を論じる。

▶A5判・360頁/定価6,930円

ISBN978-4-7842-1609-3

※日本中世政治文化論の射程

山本隆志編

筑波大学大学院にて24年間にわたり、中世東国社会史の諸問題に取り組んだ編者。その指導・学恩を受けた執筆者による、歴史学・思想史・民俗・生活史など、多岐にわたる研究成果を収録した論文集。

【内容】戦国期における足利将軍家元服儀礼の政治的背景/荘園年中行事論ノート/宮座儀礼の歴史民俗学的比較研究の課題 他

▶A5判・344頁/定価8,190円

ISBN978-4-7842-1620-8

※中世京都の空間構造と礼節体系

桃崎有一郎著

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は？ 参内するときはどこで牛車を降りればよいのか？ 中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。【内容】中世公家社会における路頭礼秩序/中世後期身分秩序における天皇と上皇・室町殿 他

▶A5判・584頁/定価7,560円

ISBN978-4-7842-1502-7

公家と武家Ⅲ 王権と儀礼の比較文明史的考察

笠谷和比古編

国際日本文化研究センターで行われている、公家（貴族）と武家に焦点を合わせた共同研究のシリーズ第3弾。今回は王権と儀礼に注目する。17篇。【内容】摂関期の天皇の葬送の実態/室町の十字架—足利義嗣と一休宗純/禁裏と二条城をめぐる政治的表象/紅葉山楽所をめぐる一考察—幕府の法会と礼楽思想の関係性を中心として 他

▶A5判・458頁/定価8,190円

ISBN978-4-7842-1322-8

京都文化の伝播と地域社会

源城政好著

思文閣史学叢書

京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者が、今までの成果をまとめた一書。在地（荘園）をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらに河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を収めた。

▶A5判・400頁/定価8,190円

ISBN4-7842-1325-2

※今昔物語集の人々 平安京篇

中村修也著

虚実ないまぜ話柄の豊富な説話文学の古典から平安京という都市で生きる人々—商人・検非違使・怪盜・陰陽師・絵師たち—のさまざまな姿を活写。【内容】賀茂祭を見物する翁/稲荷詣の男と女/蜂使いの水銀商/強運の人・上綯の人/都の怪盜・袴垂/検非違使の実態/冥界の従来者・小野篁/陰陽道の星・安倍晴明 他

▶A5判・220頁/定価2,415円

ISBN4-7842-1213-2

民俗文化複合体論

芳井敬郎著

民俗文化を生活の諸相の複合体と捉え、庶民層から貴族層までを対象とした多ジャンルの個別研究を総合し、その根底にある日本民族の民族性を抽出する。客観性を重視し、個別研究の範囲で民俗事象の分析に終始してきた従来の民俗学への異議申し立ての書。

▶A5判・460頁/定価6,930円

ISBN4-7842-1237-X

百人一首万華鏡

白幡洋三郎編

和歌・文芸の領域はもちろん、日本人の生活全般にわたって深い関わりをもつ百人一首を、歌の解釈はもとより、歴史、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介し、その文明的広がりやをさぐる。それぞれのテーマにそった版本、各種カルタ、翻訳本など、カラー口絵（16頁）収録。

▶B5判・196頁/定価2,520円

ISBN4-7842-1223-X

※中世蹴鞠史の研究 鞠会を中心に

稲垣弘明著

室町期以降の蹴鞠会の挙行形態の歴史を体系的に論じた一書。とくに応仁・文明の大乱後の15世紀後半における蹴鞠会について、新興武家層を参加者として加えた場であり遊戯性を加味しながら変容し、「故実」に代わって「新儀」が定着すること、それが近世の家元制度の萌芽と認められることなどを明らかにした。

▶A5判・300頁/定価5,775円

ISBN978-4-7842-1390-0

中世日本の政治と文化

森茂暁著

思文閣史学叢書

鎌倉時代から室町時代にかけて、現存している古文書や、政治と深く関わった宗教者から、「中世日本」とはどのような時代だったのかをひもとく、さらに『増鏡』や『太平記』、「博多日記」という記録史料など、文芸作品からのアプローチをも試みる。中世の政治と文化を総合的に明らかにした論考15篇を収録。

▶A5判・480頁/定価9,450円

ISBN4-7842-1324-4

後鳥羽院政の展開と儀礼

谷昇著

後鳥羽天皇（上皇）が課せられた政治課題とそれに対する対応＝政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証することにより、多面的な視点に立った後鳥羽理解、政治史叙述を企図したものである。

▶A5判・328頁/定価6,300円

ISBN978-4-7842-1536-2

中世京都文化の周縁

川嶋将生著

思文閣史学叢書

「近世都市」へと変貌を遂げていく中世京都の姿を、洛中洛外図や祇園会館の記録を通し、また声聞師・庭者など室町文化を支えた都市周縁の非人たちの動向と合わせて論じ、上層町衆と新興町人との世代交代という、中世から近世への明らかな時代転換が見られる寛永文化に目を注ぐ。

▶A5判・430頁/定価8,190円

ISBN4-7842-0717-1

※散所・声聞師・舞々の研究

世界人権問題研究センター編

散所の人々が携わった芸能あるいは陰陽道などのかかわりを含めて、文獻・絵画・地図の綿密な分析をこころみ、洛中・山城国・近江国における実態を浮きぼりにする。共同研究のまとめとしての座談会のほか、研究ツールとしての年表・文献目録・基本史料を収録、古代・中世社会の研究にとって欠くことのできない基本文獻。

▶A5判・590頁/定価8,610円

ISBN4-7842-1219-1

文芸の創成と展開

村井康彦著

歴史と文学の虚実—私日記・説話・歴史物語などを通して平安貴族の生活、受領の実態、武士の精神構造、女性たちの愛憎をさぐる村井文化史学の粋29篇を収め、著者の一到達点を提示する一書。

【内容】宮廷の芸文/平安貴族の生活/待つ女と拒む女の間/陰の部分への照射/中世の女性たち/『平家納経』の謎 他

▶A5判・400頁/定価5,040円

ISBN4-7842-0658-2

茶の湯と音楽

岡本文音著

室町時代後期から茶の湯が発展・拡大へと向かう時期の文獻をひもときつつ、「音楽」の世界をとらえてみる茶の湯の美意識を、大きく能楽（第1章）、「峯すり」（第2章）、茶の湯の釜の煮え音「五音ノ湯アヒ」（第3章）、茶の湯空間における音（第4章）という4つのトピックから明らかにする。

▶A5判・376頁/定価8,190円

ISBN978-4-7842-1606-2

増補 蓮月尼全集

村上素道編

多芸で知られる幕末・明治の歌人大田垣蓮月は、特に作陶と和歌に才能を発揮し、同時代の歌人たちとの交流の中で閑雅・清新な作風を磨いていった。本書は、蓮月の歌・消息・伝記を収めた『蓮月尼全集』（昭和2年）に、新たに発見された歌集、書画帖（花くらべ）、消息53通を増補した昭和55年版の復刊。

▶A5判・770頁/定価12,600円

ISBN4-7842-0182-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。